

今 昔

村 上 清

今回翔友会から寄稿の依頼を受けた。題は「今昔」で戦争の事は、なるべく忘れようとしている私に取って記憶を呼び戻す事は大変な事である。若い人に理解して貰えるかどうか自信がないが、航空関係の機関誌なので、矢張り飛行機に関係した事を書く事にした。

昭和18年の夏の或る日、広島五師団司令部付であった私は、師団長の命令で京都に出張する事になった。

その頃、戦況は日に日に悪く、飛行機の操縦士が不足し、その補充拡充が急がれていた。そこで操縦士緊急養成の為、特別操縦見習士官の制度が発足した。

私に対する命令は五師団の受験生50名を引率して、京都で試験を受けさせる様にとの事であった。受験生は五師団の各部隊より選ばれて来た兵士達であった。

京都行に際して民間人(軍隊用語では地方人と云った)と同じ車輜でトラブルを起しては困ると思ったので、出発の前日広島駅に行き、駅長に客車一輛増結を申し入れたところ、案外簡単に承諾してくれた。この様な事は、今では全く考えられない事である。親の光は七光りと云うが、私の背後に軍の七光りを感じた。

無事試験場に着き、場内をブラブラしていた学聯のO氏に会ったのは全く奇遇であった。試験も無事終り半日、時間に余裕があったので、京都駅での集合時間を決めて八坂神社で一時解散、皆が喜び勇んで京都の市中に散って行く後姿を神社の石段の上で暫く見送った。

京都駅広場では皆が時間通りに集合して待っていてくれたので、無事故で帰れると胸を撫で下した。因みに京都駅でも客車の増結を頼んだが駅長が

頑固で、一般人と同じ客車で帰ってくれとの事で、やむなく一般の乗客と同席で広島に帰った。京都では七光りが通用しなかった。

△△ △△ △△

戦争が終って1年余り比島の収容所で過し21年11月に無罪の証明書を貰って日本に帰る事が出来た。

暫くして神戸の教会に友人を訪ねた。教会は中学時代2、3年通った事のある教会で、戦前はトーアロードにあり、現在は新幹線の駅の近くにある。

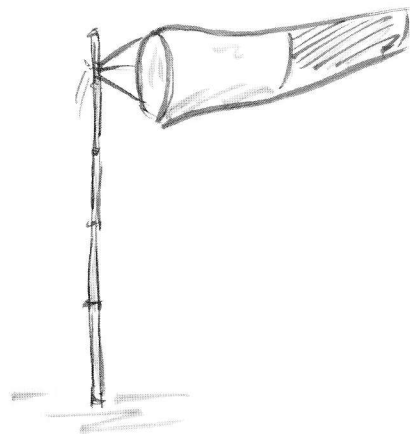
その時、或る長老が私に語った言葉が記憶に残っている。

「貴男が生きて帰る事が出来たのは神様が貴男を必要としているからです」

どうやら戦争で神様に大変な借りを作ってしまった様だ。

然し、いまだに神様に借りを返していない。

(昭和16年卒)



偶 感

角 田 信 三

10月8日に翔友会のゴルフ・コンペが彦根市で開催されることになり、7日、佐々木哲、河合達也両氏と彦根駅前のホテルで落合い、歓談中、戦前卒の諸氏は『翔友』にはば投稿されていることを知り、雑文を投稿することになった。

私事で申し訳ないが、私は彦根中学(現彦根東高)出身で、進学校であったが昔から何度も全国制覇した歴史を持つ端艇部に所属し、毎年大会が始まる3ヶ月前から合宿し全国大会に臨んだ。当時の強敵は長浜農業で、彼等の殆んどが尋常高等小学校、高等科2年出身者で体力的には齒がたたないので、ピッチ漕法で対応したが、結局終盤で負けてしまった。その他、部活ではないが、競技部、庭球部、野球部等々からも出場者が足りないとよく狩り出しを受けて出場した。私は三男で中卒後同志社、軍隊を含め65歳すぎまで、京都、横浜、神戸、名古屋で暮したが、故郷彦根市に帰る決心をしたのは、この友人達の『すすめ』も有力原因であった。

現役諸君の中には、部活を退部しようと悩んでおられる人もあるかもしれないが、私は部活や合宿を続けよ、と申し上げたい。或は勉強に不安もあるかも知れないが、学校では集中心を持って受ければ最低限はついていける。周囲を見渡してみると、帰宅組と比べて、何と友人の多いことか、何でも話せ、相談に乗ってくれる友人を持つ幸せを感じる。

次に卒業し社会活動をされている諸君、特に若い諸君に私の体験から一言、ご助言申し上げたい。私は戦後すぐ横浜の生糸問屋(貿易庁の輸出や国内集荷、販売)、大阪の貿易商社、自営、自動車関連会社を自分の意志に従い働いて、65歳すぎ自己信念で定年退職した。私の体験から次の点を強

調、参考になればと思う。

第一に、将来の国際舞台に備えて英語、特に『話せる英語、聞ける英語』への努力を強化されよ。どこへ行っても必ず通じる。

第二に、世界の中心になりつつある日本のために、意識の転換をしていただきたい。国民意識は外国人から明治時代とよく言われた。

第三に、自分をあくまで大切にすること。どんな時でも、小欲に迷って輝かしい前途を失ってはならない。不義理は厳禁の気持を持つこと。

母校と航空部の限らない発展を祈る。

(昭和19年卒)

Y先生的心

明 石 信 二

「ヤァヤァ勘平、おかるをこっちへ渡さばよし、この伴内の腕次第、パッパ、パッパとぬかすが最後、煙のように吹きとばす、日本たばこ産業の工場長の明石信二、おかるをこっちへ渡せえい」

これは過日、京都は南座の花道で二本差しも勇ましく^{ちよんまげ}丁髷姿で演じた嵯峨秀邦(片岡秀太郎丈)作の創作狂言『^{きようめいしじゆう}京 洛 十二人 錦 絵』の^に伴内^{にしきえ}の役の台詞である。

はからずも、翔友会副会長、永田猛君(大学同期)の推薦で『京都素人顔見世』に出演を依頼された時は一瞬とまどったが、少しでもお役に立て

今、社会で健闘中

佐 野 真

ばと思い勇気をふるって舞台に立った。

この華やかな舞台に立って超満員の観客席を見渡した時、ふと幼い日の思い出が甦^{よみがえ}った。

それは美しい新緑の季節の昼下りの出来事であった。小学2年生の私が級友と一緒に遊びに出かけようとするところを、「面白いものを見せてあげる」と兄が引き止めた。

中学3年生の兄は化学実験に得意になっていたのである。実験は最初は大成功だった。美しい炎が立ちのぼり、さながら花火のようであった。だが2回目に魔の瞬間が訪れた。点火と同時に辺り一面が真赤になったと思った刹那、火を浴びた私は失神していた。

それから数カ月は病床にあったが、秋の学芸会が近づく頃は顔に包帯を巻いた姿でなんとか登校出来るまでになっていた。しかし、学芸会に出るなど夢にも考えられないことだった。

そんなある日、担任のY先生(女性)から「明石くん、今年も出てもらうから、しっかり頑張っ
てネ」と言われた時は、驚きとまどいいつも嬉し
さでいっぱいになった。

私の役柄は傷痕軍人であった。包帯姿のまま舞台に立ち、級長のT君と共に主役をつとめたのである。

一時は失明もし、長期休学したうえ大きな傷あとを残していた当時の私は、子供心にも傷心の極みにあったのだが、Y先生の思いやりで見事に立ち直ることができた。いじめ、暴力、登校拒否など昨今の学校事情を見聞きするにつけ、美しく優しかったY先生に、改めて本当の教育者の姿を見る思いがする。Y先生の心は、企業におけるマネジメントにも通ずるものと信じている。

(昭和28年卒)

私が航空部に入部した当時は、合宿の回数が少なく部活の思い出もあまり記憶に留まっていますが、度々航空部の活動の便りをお送り頂き、現役の皆様方の活躍の様子を伺って、改めて航空部の成長に貢献された方々のご努力に敬意を表します。

振り返ってみますと卒業して早くも32年が経過しましたが、汽車製造^{（株）}で14年、現在の三洋電機^{（株）}で18年間を高度成長のベルトに乗っかり好・不況の繰り返しの中を何とか切り抜けてきました。

私が途中入社しました東京三洋電機は一昨年末に三洋電機と合併しましたが、当社には約400名の卒業生がそれぞれ活躍しております。特に旧東京三洋電機時代からラグビー部が全国社会人大会でも活躍しておりますが、畑・平尾君(35年卒)たちが基礎を作り、毎年のように多くの有力な後輩を得て、今年こそは優勝できそうな勢いで勝ち進んでおりますので期待できそうです。

航空部の出身者は、大久保君(47年卒)が私と関連のある空調機の販売で頑張っています。私は現在産業用、空調用の冷凍機などの生産をしておりますが、主力商品は吸収冷温水機と呼ばれておりまして、大容量の電力を使用せずに都市ガスや油の燃焼熱を駆動源として冷暖房ができることからオイルショック以降急速に需要が伸びて大きな建物の冷暖房機の主力に成長し、最近の内需拡大の恩恵を受けて大変多忙な生産を行っています。三洋電機の中では全く異色な商品ですが、業界でもトップシェアで、東京ドーム球場、アークヒルズの地域冷暖房、松下ツインビルや母校の田辺キャンパスにも納入しております。

日本の産業界を取り巻く環境は今後も厳しさは続くと思われますが、まだまだ頑張りたいと思っています。

(昭和31年卒)

家族会

竹 鼻 信 昭

43年卒の私達が卒業後丁度20年の今年、久し振りに集まろうと思いついたのは、私が2月頃に東京へ出張した時、山田さんと鬼頭さんに“久し振りにメシでも一緒に食べようや”と新宿で飲んだ時のことでした。私達も年令的に、社会の重要な働き手として、それぞれに忙しい立場に居る時期だろうと思いますが、人間は忙しい時ほど色々なことをやりたくなるらしく“久し振りに集まってみようや”“もう20年も立つんやな”“5月頃がいいで”“それなら俺がお膳立てをしてみるわ”と云う事になった訳です。

5月14日を“その日”と定め“奥さんも子供達も、可能な限り集まろうや”と云うことになり、阿部さんと住友くんは都合で出席できませんでしたが、当日は石元先輩を含め23名が集まりました。

高槻の摂津峡の中にある山水館で、岩風呂と露天風呂に入り、石元先輩を交えて昔話や家族、仕事の話に花が咲き、ときの過つのを忘れてしまいました。子供達は2歳から13歳までの遊び盛りの為か、以前から友達同志だったように、やかまし

く、にぎやかに遊び廻っておりました。土日が忙しい赤見くんもわざわざ小牧の仕事先から来てくれました。北村さんと木村くんはそれぞれ奥さんと子供2人を連れて車で参加、鬼頭くんも徳永さんも山田夫妻も遠くから、この日のために参加してくれました。白石さん(旧姓高橋)は、子供達4人を引き連れて、たくましい姿を見せてくれました。勿論我家も子供2人と家族全員で参加しました。久し振りに集まった我々にとって、半日は余りにも短かいひとときでした。なごり尽きない我々は場所を近くの我家にうつし、11時頃まで団らんし、それぞれに解散しました。

“次回は泊まりにしようよ”組合等の保養所を利用して次回は泊まりにしたいと思っています、又日頃から積立をして負担を小さくすることも考えていこうと思っています。

あの4年間で我々に一生尽きる事のない素晴らしい仲間を与えて下さった事に感謝しながら、次回の再会を思い浮かべております。

(昭和43年卒)



木村 鬼頭 石元 北村 徳永 白石
 竹鼻 山田 赤見 山田
 (列史) (道子)

悪 我 記

白 石 美 寿 ヲ

はるか昔、花も恥じらう乙女の頃、春うららかなオリエンテーリングのある日、ソアリングしているグライダーの写真を見て、単純且つ感覚的思考力しか持ち得ていない私は、人類古来からの願望「空を飛んでみたい」あこがれが、モクモクと入道雲のように、薄き胸に熱き思いがふくらんだ。兎に角、合宿へ参加してみよう、かしまし娘4人と共に、ルンルン気分が高松へ参上。今までと一変して、緊張のたよう中で、手旗や練習説明があり、もう不安で一杯。エライコッチャ。

一夜明けると男組誰もいない。女組あわててグループに乗って滑走路へ一目散。わけわからぬまま、飛行回数も百回過ぎた頃、中免合宿となる。数日の練習の後、テストを受けられない者は荷物をまとめて帰らねばならない。その中に友達がいた。本人も相当辛かっただろう、私も辛かった。交わす言葉がない。それがお互いのいたわりだった。別れた後、机にメモが置いてあった。「次に挑戦するからがんばって」と。

いよいよテスト、機種は立命のセコンダリー。当り前だが独りでとぶのだ。1回目、指定地の手前で着陸。2回目、指定地オーバーで又も失格、ドジ子の私らしく、次の合宿になってやっと免許を確保出来た。

合宿アラカルト 高松合宿の記

一番どりの鳴き声で目をさました。顔も洗わず、ねむた目をこすりつつ、月と星を見上げながら、よく見ないと周囲に誰がいるのかわからない程の夜明け前、格納庫まで走って行った。今だから言えるが、地上勤務は私にとって辛かった。滑走路を一日中、走っているみたいだった。その上、山田先輩と危険な飛行……(着陸が滑走路の柵ぎりぎりだった)…のため北尾教官のご命令により地

上場周を2回もした。正大寺の門の横にある〇〇仏に、「明日、雨が降りますように」とひそかに手を合わせていたのは、私だけだったかしら？

なつかしい宿舎の五衛門風呂、入ったら汚れそうな目茶苦茶アカだらけのお湯。誰かの足跡や蚊をたたいて血のついたシーツ。時々、町へ出て、先輩におごってもらった「あづまや」のアイスクリームのおいしかったこと。

富山合宿記

粗食なお弁当だったので北尾教官にお手製のハンバーグを作っていただいた。滑走路のそばの川べりでバーベキューをして栄養補給して楽しかった。

うずら野記

雨の日が続いたので今は亡き佐藤さんと卓球をしたりギターをつまびき、「静かな雨、並木の雨」とよく歌っていた。上空からの景観は、池がいくつもあり素晴らしかった。滑走路でふるえる程の寒い日、ヒヨウが降って来て、逃げ場がないので泣きそうだった。その夜、家に送金をねだる電話がつながるのに40分程かかった。そんな片田舎だった。貸し電話のおじさんが寒いから、家に入れてくださり、あたたかいココアを飲ませてくれた。そのおいしさはわすれられない。

霧ヶ峰、ブライマリー体験記

関東と関西の合同合宿、長靴をはいた、見るからに恐わそうな、土方風な早稲田の水川先輩が私のチームコーチ、今思うにきびしくてあたたかい男らしい人だった。ひたすら、かけ声をかけ、高原を走り回っていた。素晴らしい景色と高山植物が全ての疲れをいやしてくれた。

最後に小倉での全国大会オープン競技出場

忘れもしないきつい横風、接地だけが心配だっ

私の青春雑記

大久保雅史

た。案の上、すごいバウンド。万事休す、結果は3位に終わったが悔いはなかった。山田教官、北尾教官に喜んでもらえてうれしかった。帰りは竹鼻氏の車で北村氏と3人でドライブしながら帰った、「君といつまでも」を歌いつつ……。

ほんのひとときであったが、寒さ、ねむさ、ひもじさを味わったけれど、それを乗り越えて、共汗共働で育てた仲間との思い出は、私の財産であり誇りでもある。

静けさと
空の青さと
風と
雲と
鳥と
太陽

そしてグライダーよ thank you forever
サンキュウー フォーエバー
ペンを取ると、走馬燈のように次から次といろんなシーンが浮かんできます。

(昭和43年卒)

久し振りに同期の山井君から電話が有り、翔友に寄稿を依頼され、何を書くか考えてみると航空部に入ったのは20年前で、学生時代の部活動とグライダーがまさに私の青春其の物だった様に思います。

私は中学時代からグライダーで空を飛ぶたいと考えていました。大学に進むとすぐ航空部に入り念願のグライダーに乗る事ができ、以来グライダーの虜になってしまいました。機械工学科に入って勉学に励む志もグライダーの前には脆くも崩れ去り日々、部室に通う事になったのでした。

今は懐かしい新町校舎の木造建の2階の端部屋で大きな木のプロペラ、曳航車から外したシート、普通の人が見たら鉄屑としか思わない機材を置いてあった機材庫等々思い出されます。

新人歓迎コンパで生まれて初めてビールと酒を浴びる程飲んで次の日、生まれて初めて二日酔いの経験を味わったが以後アルコールとの付き合いも止められ無くなってしまいました。入部初の富山空港の新人合宿、神通川の河原に作られたランウェイは短い、グライダーを押して走るには十分に長く、合宿が終ると新人で残ったのは高橋、山井、高島と私の4名だけでした。でも一度も退部する事は考えませんでした。それは初めての慣熟飛行の感動を忘れる事ができなかったからで、夏の霧ヶ峰での合宿ではパチンコと言われるプライマリーを体験、これは私が中学生の時に持っていたグライダーのイメージとぴったりでした。顔に風がもろに当たって人の頭位の高さを飛んでいるのにやたら高く感じた事がついこの前の様に思い出されます。

入部してすぐ自動車係を拝命し、ボンコツ車にワックスをかけさせられた事や、曳航車は古いが、

第16回全国大会プログラム



キヤデラック、リンカーン、クライスラー等々フルサイズの高級車を使っていて結構、格好が良くメカの面でも当時の国産車より勝れていた事、安くて高性能の曳航車を探すのは大変骨が折れ、やがてローカル空港が使え無くなり、ウインチ作りに熱中したのも良い思い出です。

単座機、Ka-6E アイオンを目の前にした時の驚きは今も鮮かで、私は増々グライダーの魅力に取付かれてしまいました。2年になって福井空港の合宿で同期生3人揃って初ソロ、夕方のあの静かな気流が今も忘れられない、イオラスのあの扱い慣れた操縦桿の感触が戻って来る様です。

3年になると部内での責任も増し、各地での合宿、その度の曳航車、機体の陸送も今思えば懐かしさでいっぱいです。一度借り物のリンカーンを陸送中、北尾教官、同期の高橋君、山井君を乗せて福井からの帰り雨の中でスリップし一回転、後ろからガードレールの切れ目に突っこんで危うく難を逃れた事は今も忘れません。

同期3人揃って上級に合格した喜び、妻沼でC賞を取った事、福井で飛行機曳航のソロに出た時の開放感のすばらしさ、その合宿中、私のミスであわや北尾教官とパイパーで心中しそうになった事を思い出します。妻沼で合宿中、母が危篤で急いで帰るため生まれて初めてジェット機に乗り伊丹からタクシーをとばしてやっと死に目に会えた事や、山田先輩、名城の二塚君、関大の松村君の不幸な事故など悲しい出来事も有りました。

4年生には副将と学連の副委員長に任命され、故八木教官と滑空場捜しに走り回った事もありました。あちらこちらの合宿に参加しやっと加古川で教育証明に合格し以後、増々グライダーとの付き合いが深まるのですが、合宿はウインチ曳航とな

り滑空場も岡山の吉井川で行う様になって Ka-6E や Ka-6CR に乗る機会が増えグライディングの楽しさが判って来た反面、後輩の後席で指導する事の難しさ自分の技量の不足を痛感しました。短い後席の経験でしたが、吉井川の合宿でC賞獲得者が出た事や、現土田コーチがソロで前線上昇風に乘って降下できなくなりダイブ全開で帰る様指示した事、全国大会出場の守屋君と同乗し同じく前線上昇風で上昇し遠くに流されて已む無く引き帰した事などが記憶に残っています。

其の後48年に卒業し、何度か合宿に参りましたが東京勤務となり49年に結婚し私の青春にもピリオドが打たれ、18歳で入部以来恋人としたグライダーとの青春は終わったのでした。今でも本当に楽しい日々だったと思います。筆を取りながら又グライダーに乗りたと思うと同時に、小野部長を始め航空部関係者、OBの方々、お世話になった教官の方々に感謝申し上げ終らせていただきます。

(昭和47年卒)

— 前線上昇風 —

寒冷前線付近では、冷たい空気が暖かい空気の下に突入してくるので、しばしばその前面に強い上昇風が発生する。

前線の移動につれて飛行すれば滞空も、距離も稼げるが、荒天の場合が多いので要注意だ。

学生諸君

川村茂樹

私事ですが、このごろスカイダイビングをやっております。甲府の富士山が真近かに見える所で、10,500ftの上空から Redy, Set Go. / で大空へ飛び出すわけですが、まあ、実に爽快です。

卒業して何年もたちますが、やはり大空への思いは断ち難く始めましたのですが、これがかなりのつわものぞろいの集団で、なにしろ活動している人の大半がアメリカまで jump しに行った経験者で、その為に仕事をやめたりもする訳です。なぜそこまでしてアメリカへ行くのかと言うと、1ヶ月も滞在して飛べば日本での何年にも相当するくらいの技量が身につくからで、日本である程度飛んだ人はアメリカへ行ってしまふ、というのが大勢となっているのです。

これを見ていると現役の学生諸君も、オーストラリアあたりへ行って、大きくグライダーを楽しむようにできればなあと思ったりします。現状では、まず“金”の問題で通常の活動だけでも大変で、それどころではないでしょうが、スケールの大きなグライディングを目ざして夢をもって活動してほしいと思う今日このごろです。

(昭和57年卒)

——ターンバックル——

両方からの張り線をガッチリ受け止めて、固く締め上げてゆくターンバックル。翔友は、現役とOBの間であって、そんな役割を果たしてゆきたいものだ。

来たれ北海道へ

落合俊英

56年丘珠飛行場にて「滝川の河川敷でテストフライトをして欲しい」との話が出てるんだけどどうする。」「丘珠飛行場では、管制官に撃墜されるし今よりは条件が良いでしょうから行きましょう」「それじゃテストフライトは10月にします。」と、気軽に開発してしまった滝川滑空場を、滝川航空協会発足後譲ってしまい再び舞い戻ってきた59年7月丘珠飛行場にて、プラスコンマ5で上昇中に突如「グライダー札幌タワー、YSが来ますのですぐ着陸してください。」「札幌タワーグライダーあと15分は滞空出来ますが」「グライダーすぐ着陸しなさい。」「了解…」急旋回をしダイブを開き無理やり高度を落してチェック報告後、我が耳を疑う信じられないタワーからの連絡「グライダー札幌タワー あと10分飛んでいて下さい。YSファイナルです。」「札幌タワー 滞空は無理です、もう着陸するしか方法はありません。ショルダーに着陸します。」「札幌タワー…了解…」とグライダーの事を全然知らない管制官に撃墜され見事な？YSとの編隊同時着陸をしてしまった。なんと幸運？ な事か。

そしてその日、新篠津村の河川敷を滑空場に使えそうだと話が出て撤収後現地視察。これまた10月にテストフライトをし、村長、助役の一声にて村の全面的な協力を得て新篠津滑空場が出来てしまった。そして現在長さ1400メートル、排水も良く、飛行機曳航も出来る堂々たる滑空場になっている。

なんと北海道人の雄大なる心よ！

なんと北海道人の素朴な行動力よ！

63年1月「教官、実は同志社大学航空部の北海道強化合宿の話が出てきてるんですが如何な物でしょう」「それはいい、確か宿泊施設も村に有っ

そして京都

藤 田 浩 行

たはずだし、最初から機体等を持って来るのも大変だろうから札幌航空協会の機材を使えばいいよ。うちのウインチも使えるんだろう？ B4も乗ってもいいよ。来週新篠津村に行く用事があるから、それとなく村に話しといてあげるよ。」といとも簡単に受け入れ態勢が整ってしまった。

なんと北海道人の寛大な心よ！

北海道の空には、沢山のテルミックがある。幻の名機H-23C (JA2056)の1000メートル飛行も年に5回程出ている。単座機によるに5時間滞空も夢ではない。そして何よりも得難いヒューマンテルミックも沢山有る。現役の強化合宿はもとより、OB 諸氏も北海道旅行の時に新篠津滑空場に立ち寄って、懐かしいH-23Cで飛行し、学生時代に思いを馳せては如何でしょうか。

来たれ北海道へ！

(昭和60年卒)

結構、私は京都という街に縁があるらしい。

学生時代4年間を過したものの、就職で実家のある明石からの通勤が、まさか半年後の転勤で京都へ舞い戻るといことになろうとは考えもしなかった。そして今は学生時代と同様、左京区に住んでいる。再び同じ地で生活することになり、見るもの聞くもの全てが懐しく、同時に月日の流れを感じたりする。そう、これは最近のことなんだが中島食堂が改装し、値上げしたとか、相変わらず松乃家が様変わりしないとか、たわいのないことに驚いたりもする。また暇な土曜日なんか、たまに学校に寄ったりするのだが、室町通りでも通れば、ずっと以前に閉鎖された室町 BOX の存在にホッとしたりもする。それに卒業してからは、同期(61年卒)とも疎遠になりがちだが、私が京都で再び1人暮らしを始めたことで、四畳半でのコミュニケーションもはかれるようになった。

なにはともあれ、私は今社会人2年生として京都に居ます。

(昭和61年卒)

— H-23C —

長いこと同志社の鳥人達を育て上げてきた忘れられない名機、H-23C。

現在も北海道の空を飛び続けているらしい。

JA2047は我がイオラス。

JA2055は北海道滝川市在籍。

JA2056は新篠津村の上空を飛ぶ兄弟機。
健闘を祈ろう。

— 当るかな？ —

“今日はあの山に雲がかかり、この谷から風が吹き上ってくるから多分明日は雨ダンペー” こう言った山里の古老の天気予報が、コンピューターを駆使した現代の天気予報よりも時には当ることがある。

地域、地域の特異な天気予報の難しさがそこにある。

乱気流 3 人娘

近 藤 信 子
鈴 木 美 穂
山 本 真 子

近藤です。法律事務所に勤めて半年、今まで割ったコップ数知れずなぜか生傷の絶えない日々である。

8月のこと。私はガラスコップで指を切った。仰々しく包帯をした手で来客者にお茶を出した。その人は、ヤ○ザである。彼は私に言った。「どうしたんや」「手を切ったんです」と私。彼はおもむろに自分の右手を出し、言った。「こんな風にか。」その手には指が四本しかなかった。『ヒーーツ』

世の中、変な人が多いと思う日々でもある。

×× ×× ××

鈴木自転車はレトロだ。この自転車は私が小学校三年のお年玉で買ったもので未だ現役。もちろん私の自動車の走りと同じく SHARP な走りを見せてくれる。レスポンスもいい。通常、人が8分かかる道のりを私は5分で駆け抜ける。会社の人達にも私の走りは有名だ。7時55分村田製作所の前に行けば、鈴木立ちこぎが見られるであろう。

×× ×× ××

山本は現在梅田で OL している。入社当時は、立てば〇〇座れば××…等といわれお嬢様路線を走っていたのだが、どうも化けの皮がはがれかけている今日この頃である。アフターファイブのお誘いも、春に比べ年令層が高くなってきたように思う。最近では取締役からも顔幅が広いとからかわれ、おとぼけ役が板についてきた。さて、仕事であるがとても楽しんだ。

(昭和63年卒)



鈴木 近藤 山本

監督の老婆心

遠くに立山連峰を眺めながら、のどかに場周飛行をしていた。ピスト横を通過して第3旋回に入る少し手前で猛烈な乱気流帯に突入した。愛機イオラスはロデオの荒馬と化した。「アイ・ハブ!!」と叫ぶや手足を舵角一杯まで使って姿勢を保とうと格闘するが、可愛想にイオラスはギンギシと悲鳴を上げ続ける。やっとどうにか第3旋回をし終ると、あとはウソのようなスムーズエアの中居た。着陸前の低空での激しい乱気流には会いたくない。

3人娘もアフター・ファイブ・タービランスには呉々も気をつけてネ。

チリトマト

原 田 忠 明

「10時のティタイムにカップラーメンを食べた研修生がいるらしいが、今後、その様な非常識な事は慎しむように。」名指しで叱られなくて助かったと胸をなでおろし、口から放つチリトマトの香りを気にしながら、会社というのは今までとは勝手が違うことに戸惑いました。入社してはや6カ月、ようやく毎日定刻に起き、時間通りに通勤することに慣れてきて、サラリーマンとなった我身をしみじみ感じています。たった半年前まで自分もそうであった「学生」がすでに10年も前の出来事のようにその時は何とも思わなかったのに、今では妙になつかしく、ため息が出てしまいます。

会社は岡崎市にあり、岡崎は覚悟していたよりは都会でしたが、とは言ってもやはり、徳川家康と八丁味噌しかないようです。しかし、幸いなことに社会人グライダークラブがあり、坂田先輩をはじめ、学連出身者も多く、卒業後もグライダーと縁が切れることなく、飛べることは恵まれた所です。まだまだ学生気分の抜けぬ私ですが、今後とも御指導ください。

(昭和63年卒)

食う寝る仕事

古 川 勝 也

入行以来早くも半年がたちました。時がたつのは早いもので、自分はほんとうに社会人になったのだろうかと思います。似合いもしないスーツを着て毎日会社に行っております。今の働く食う寝るの生活からみると学生時代のメチャクチャな行きあたりばったりの生活がなつかしく思えます。もう一度くうねるあそぶの生活がしたいと思いますが、そうもいかず毎日支店と家を往復しております。

話は変わりますが、今度10月1日付で、コンビナートのド真中の三重銀行塩浜支店から、まわりが銀行だらけの四日市市^{シンドウ}新道支店に転勤になると同時に融資係から外回りになってしまい引継ぎのために10月の3連休をほとんどつぶされてしまいました。夏休みも1日しかとれず、帰日も遅い日が多く仕事漬けになりつつあり、いつも旅行に行きたいなぁと思いながら生活しております。つくづく社会人は大変だと思います。まあこれから大変ですので体をこわさないようにやりたいと思います。

(昭和63年卒)

第13回同立戦を観て

福井での同立戦、5日目と最終日を観戦した。

第1部では、周回速度課目を達成することが可能な気象条件に恵まれず、この課目では両校共得点なく、滞空時間と獲得高度によって得点を争うこととなったが、昨年度全国大会出場の大野、山口両君を擁し、4年生の層の厚い我校が圧倒的に強く、交互に出発した両校4機が空中にあって、大低は我校の2機が残って、立命機が帰投するケースが多かった。その中であって、入賞こそ

逸したが、立命の3年生で1部唯一の女子選手の健闘は素晴らしく、競技委員長の小野先生も閉会式で特別に敢闘賞を贈って、その健闘を称えられた。来年は1部の強敵に育つであろう。

しかし、2部では松田君がよく頑張り、1位を確保したものの、全般的には立命選手の飛行の方が安定しており、2年生なりの完成度を見せた立命の潜在力は、来年以降の同立戦には大きな力となることを窺わせた。